

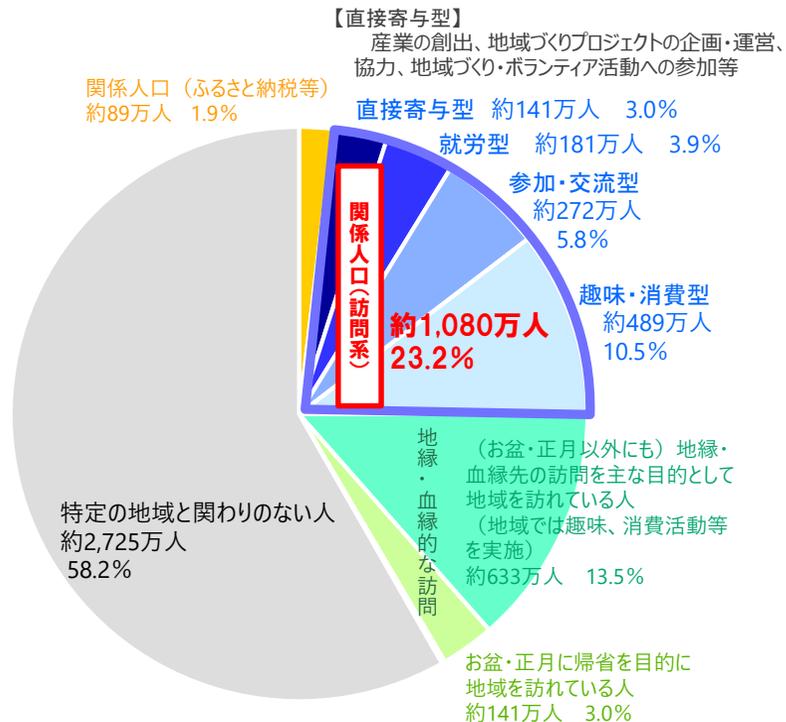
～ 地域づくりにライフスタイルの多様化等をどう活かしていくか ～

- 人口減少・少子高齢化が進行する状況において、地域の活力を維持していくためには、関係人口を含めた地域の活動力を高めていく必要があることから、本懇談会では、関係人口の類型化・定量化を行うとともに、ライフスタイルの多様化やシェアリング等が対流に与える影響を検証し、地域づくりの担い手を確保するための関係人口のあり方、関係人口の拡大・深化に向けた課題等を整理した。
- 関係人口の類型化・定量化では、三大都市圏に居住し他の地域に関わっている関係人口を推計した結果、一千万人を超える人が関係人口として地域を訪問しており、地域と多様な関わり方をしている実態が判明した。
- 地域との関わりについては、内発的発展への寄与（直接的又は間接的）と滞在時間・頻度の観点からの整理が可能である。

【関係人口とは】 地域外にあって、移住でもなく観光でもなく、特定の地域と継続かつ多様な形で関わり、地域の課題解決に資する者などをいう。

三大都市圏に居住している関係人口

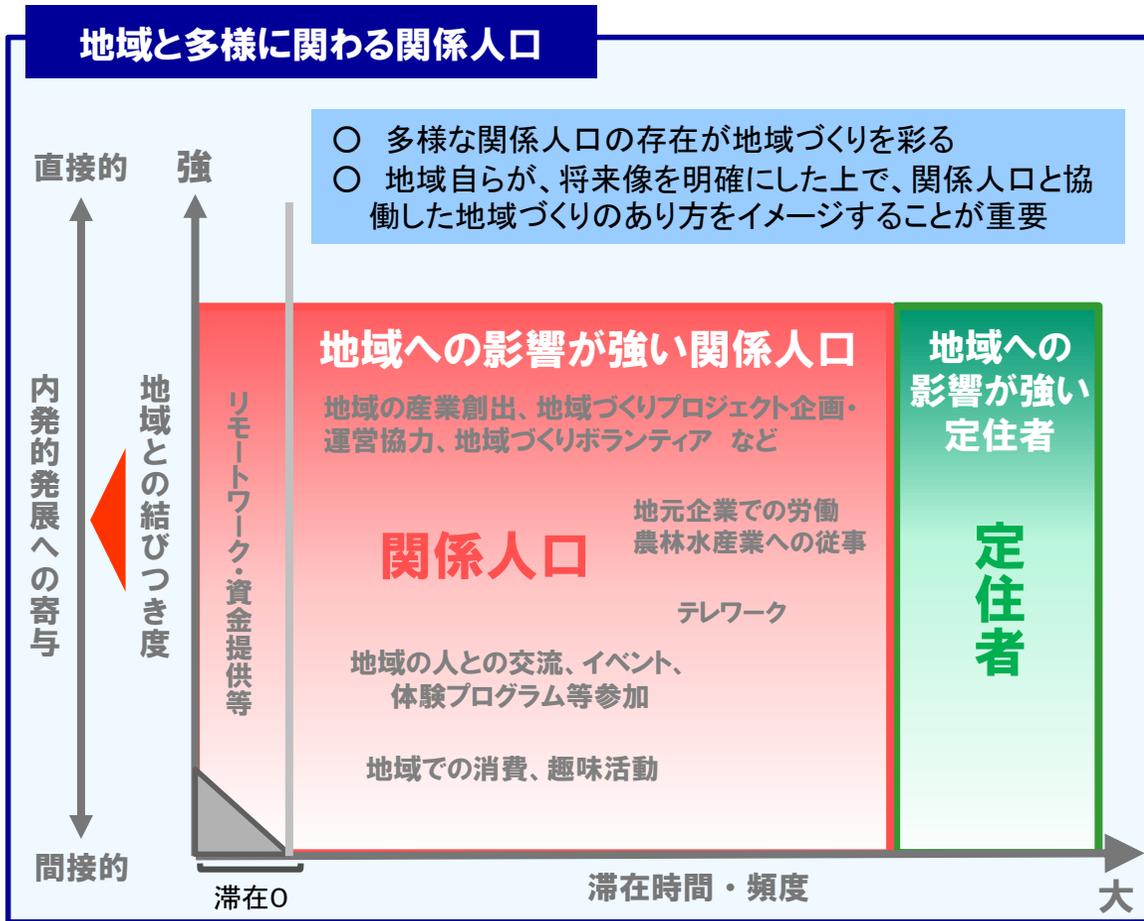
一定程度の関係人口が存在し、居住地以外と関わっている



(出典)「地域との関わりについてのアンケート」(国土交通省、令和元年9月実施)
(三大都市圏の関係人口、人数ベース)

地域と多様に関わる関係人口

- 多様な関係人口の存在が地域づくりを彩る
- 地域自らが、将来像を明確にした上で、関係人口と協働した地域づくりのあり方をイメージすることが重要



「ライフスタイルの多様化等に関する懇談会」 議論の概要 【概要 その②】 国土交通省

～ 地域づくりにライフスタイルの多様化等をどう活かしていくか ～

- 価値観や働き方など、ライフスタイルの多様化が進展するにつれて、個人の時間の使い方や関心事が多様化するなど、地域への関心や興味が高まる素地が形成されつつある。
- 地域に人を引き込むためには、都市と地域を結ぶプラットフォームや都市側及び地域側の双方の関係案内所、関係案内人等が地域住民らと有機的に連携・協働することにより、“つながりのサポート”を有効に機能させ、偶発的なつながりを誘発することが重要となる。
- シェアリングは、安価なサービスを提供する等、経済面から地域への滞在や地域への移動を促進するとともに、一部ではコミュニティ形成に寄与している。特に、社会的な要素の強いシェアリングは公的サービスを補完し、地域課題の解決の一助となる可能性がある。

関係人口となるためのプロセスの一例

